

Interview #03

*2025年2月インタビュー

2025年2月所属：生命農学研究科 動物科学専攻
(名古屋大学融合フロンティアフェロー／博士の未来フェス名大代表／
卓越大学院GTR)
2025年4月所属：株式会社資生堂



生命農学研究科 谷川 未来 さん

この春からはどういう仕事をする予定ですか？

資生堂のスキンケア部門で基礎研究をすることになりました。概年時計の研究の中で、概日時計の発現リズムは季節によって変化していることを明らかにしています。この研究成果が重要なマッチングになっていて、実は、資生堂は飲料会社や製薬会社と提携してインナービューティーの領域を拡張させていて、一日の体内時計を整えるドリンクを開発・発売しています。季節によって概日リズムの発現が異なっていたら、同じドリンクを飲んでも効き方が違うこととなります。それで私の研究と親和性が高かったわけです。これまでと同じ「季節性による概日リズム」を研究できるのは嬉しいですし、ありがたいことだと思っています。

これまでやってきた研究の概要を教えてください

分野は生命農学で、概年時計の制御機構を理解するための研究を行ってきました。多くの生物に共通の機構で、1970年くらいから概年時計の存在自体は認められていたのですが、チャレンジングな実験なので未解明な部分が多かったんです。結果的に、メダカには約6か月の概年リズムがあること、518個の遺伝子が6か月ごとに発現リズムを持っていることを明らかにしました。その後、実験対象をマウスにも広げています。

就活の流れや、キャリアに関する考え方は？

もともと資生堂に興味があったわけでも、化粧品業界に興味があったわけでもないんです（笑）。ずっと研究者になりたくて、アカデミアに残ろうと思っていました。そんな中、博士課程教育推進機構キャリア教育室の企業との「体験型ワークショップ」というイベントで、資生堂の人と意見交換をする機会があったんです。その時に私の研究にもすごく前のめりに関心を持ってくださいました。そして、資生堂は利益の何%かを基礎研究費用に充てていて、その割合が他社と比べて圧倒的に高いんですね。美容商品とか健康食品とか、正直、疑わしい成分とか効果とかがあるイメージでしたが、資生堂は本当に丁寧に基礎研究をしているのが伝わってきました。それで、資生堂かポスドクの2択で決めました。先方にもそのように伝えていたら、最終面接後に「どの研究機関よりも谷川さんが研究しやすい環境を用意するのでぜひ来てください。」と声をかけてくださり、信頼できると感じて決断しました。ちなみに、選考もすごく早く、書類・オンライン面接・最終面接の3ステップだけで、研究に集中できたのもありがたかったです。

キャリア形成にあたって活用したこと、在学中に経験してよかったことを教えてください。

活用したのは、先ほど話した企業との体験型ワークショップですね。最終的に、あのイベントでの出会いがなければ、企業就職を全然考えていなかったのでも...。博士課程で経験しておいて良かったのは、色々なコンペティションやコンテストに参加して、バックグラウンドの異なる人とコミュニケーションする機会を作ったことです。研究室や学会くらいだと、どうしてもコミュニティが狭くなり、それに伴って視野も狭くなってしまいます。イベントに参加することで、研究者だけでなく企業目線でも自分の研究を見られるので、新しい発見や深掘りのきっかけになったと感じています。あとあまり博士課程と関係ないのですが、高校生のとき、タイタニックのディカプリオに憧れて、英語を習得するためにオーストラリアに留学に行きました。英語力には自信ができましたね。

就職活動で評価されたであろうと思うことはありますか？

2点あります。1つ目はコミュニケーション能力です。例えば、研究室の人たちと会話していても、初対面だと顔を見れないとか、喋ってても最低限の言葉しか返ってこないことって多いんです。その点、私は異なる視点の人たちと積極的に交流するようにしていたので、自然と自分の知識や意見を言葉にできていたのかなと思います。2つ目は、自分はなぜこの研究をしているのかという確固たる価値観です。私の場合は、オーストラリア留学で見たことない動物と触れ合ったり、逆にカラスがいなかったり、そういう小さな経験もきっかけになりつつ、生物の生存戦略に純粋に興味を持っていました。もう少し言語化すると、各生物が生きるために全くバラバラな戦略を取り入れている自然界のカオスを美しいと感じて、その一方で生物学的に整頓されている部分もあって、それもまた美しいと感じるんです。そういう美しさに魅入られて研究してきたのですが、その点、資生堂も美しさを追求する企業だったので、評価いただいたかなと思います。

後輩たちにエールをお願いします。

まずは、学歴や就職のためでなく、研究を楽しむために博士課程に進んでほしいです。私が博士課程に入って良かったと最初に思ったのは、本腰を入れて研究に打ち込めたことなんです。とはいえ、D1の秋頃に「これは博士やめなアカン。もう無理かもしれない。」と悩んだ時期がありました。特に生命系はデータが出るのが遅かったり、ちょっとしたミスで1年分の実験が無駄になったりもしましたし…。周りに相談しながら続けていたら、ありがたいことに少しずつ実験結果が出て、論文も出せて、D2以降はやめたいと思う暇すらなく、むしろどんどん楽しくなりました。もちろん研究実績は大事なのですが、なんで研究してたんだっけ？なにが楽しかったんだっけ？という純粋な心を忘れないようにしてほしいです。あとは、休息の重要性ですね。悩んで煮詰まった時に、1週間半くらい実家に帰って休んでみたんです。そうしたら頭が上手に切り替わって、パフォーマンスを出せるようになりました。指導教員も、あれだけ業績をあげてあちこち飛び回って研究に没頭しているのに、ちょこちょこスキー旅行とか行ってるんですよ。そういう点でも指導教員のことは尊敬しています。みなさんも、休息をとりながら楽しみましょう！。